

「くそー、これでも今月4回目だ！」
 とでも言ってるんでしょうか？ ヘル
 シンキの中でも特にさっむい凍てつ
 いた港の駐車場なんかは止めとくか
 らだよ、おい。



NOKIA

こちらノキアの生まれた国、フィンランド。もちろんみんな携帯電話持っ
 てるし、ひっきりなしに着メロ鳴ったり、ことあるごとにメール打ちまくっ
 たりで、あー、もうまるで日本みたい！なのに、この国の人が携帯電話に求
 めるモノは日本のそれとはちと違って、お気に入りのマグカップや椅子やハ
 ブラシを選ぶ感覚に近い。なんてたって日用品ですから、とにかくストレ
 スフリーなモノをご所望なんです。マグカップを選ぶのにスペックの数字を
 気にする人なんていないでしょ？ 最近いい電話使ってる？

撮影 | 木寺紀雄 text Shogo Kawabata coordination Juho Juutilainen



公園がママの社交場なのは、どこもおんなじ。外が氷点下でもね、どこの携帯使ってる？な
 んて野暮な質問に、「もちろんノキアよ」と即答してくれたのはエレナとメリナのママ。



本日のミス・ノキア、ヨハンナ。ランニング中に電話が鳴って、取り出した電話にノキア・
 ログがちらりと見えた瞬間、取材班一同にんまりでバシャッ！



最近耳が遠いヘルビおばあちゃんとケルトゥおばあちゃん姉妹は、こんな至近距離でも携
 帯でおしゃべり、しませんから、それぞれ仲良しのお友達にね。



指定の番号にビッピとテキストメッセージを送るだけで、シャキシャキとカウンターが作動。フィンランドではパーキングの料金も当たり前に携帯で払えます。

ヘルシンキからストックホルムまで行くフェリー乗り場。こちらの料金も携帯でビッピ、カウンターがシャキシャキ。自販機のジュースだってビッピで、ってしつこい???



滑りやすく、決して平坦ではない雪上の難コースで、携帯片手にスイスイと軽やかなベビーカーさばき。さすがはハッキネン、ライコネンの国。

雪の中を黙々とMTBのペダルを踏むユハさんは、実は小説家。突然思いついたアイデアをすぐ誰かに電話して、リアクションを稼がめないと気が済まない性分。



ヘルシンキの牧師さんの中には、入力しておいた携帯読みながら説教する人もいらっしゃる。そのお話を携帯にメモして帰り道で読む信者さんがいるかどうかは知らないけど。



左上/冬はさすがに客足が鈍いのう。露天商のおじさん。そろそろ場所を変えたほうがいいんじゃない? ずっと電話しっぱなしじゃん。右上/同じくパッとしないからって、なにも露天のおじさんとおなじ格好で長電話することないのね。移動花屋さん。花屋っちゃってるし。左下/日本でいう渋谷駅前の交通点的なスポット。フィンランドの人口は約500万人と少ないんだけど、冬の街ではさらに控えめ! 右下/ヘルシンキ大学の仲良し4人組。左からマイユ、ハンナ、ローイ、マルティン。もちろん、みんなノキアの携帯をご愛用。て、ころっ! マルティン!



携帯情報もりもり新聞による、番メロランキン! 1「古い電話のベル音」、2「Hey Ya/Outkast」、3「Huuliharppu kostaja/Enno Mornicze」(フィン語はなわ)、4「スーパーマリオ」、5「Tuulet puhaltat/Idols」(フィン版モー娘。)

みんながみんなそこら中で電話やらメールやらしまくっちゃって、フィンランドにはマナーってやつがないのかッ! ってないんです。まったく。レストランだろうが、電車内だろうが、お構いなし! マナーがないっていうか、そういう文化みたい。マナー違反になるところはサウナの中くらい。んな湿気の多いところで使ったら電話が壊れちゃうから、で意味ではなく、フィンランド人にとってサウナはとても神聖な意味を持つ場所だから。電話に出ない=サウナ中と思って下さい。

サービスに関しては、もう見ていただいた通りの充実ぶり。駐車料とかジュース代なんていちいち携帯ピッピするより、さっさと小銭チャリンチャリンしたほうが早いんでない? なんて思うかもしれないけど、こっちは

人はみんなクレジットカードで買い物しちゃうから、財布に小銭がほとんど入ってないのよ。携帯はコイン代わりってわけ。日本以上に携帯は「生活必需品」で、ノー・ケータイ、ノー・ライフなんですわ。

そんなフィンランド人の携帯「愛」の強さがよくわかるのが「新聞」。ちらっと聞くだけで、もう携帯関連の記事だらけ! 今流行りの番メロランキングはもちろん、「間違え電話がかかってきた時のおもしろアクション特集」や「落とし物携帯、誰がネコババするかスペシャル!」なんて、トンデモ記事のオンパレード。他にもっと伝えるべきことあるんでない? と心配になっちゃうほどの充実ぶり。結局、落とし物の携帯は「誰もネコババしなかった」らしいよ。どーでもいって? あ、そう。



それはそれはまるで天国のようなノキアハウスとは相反して、外の寒さはやっぱりまじまじ! 一機駐車場に車を止めておく。このありさまですよ。一体どうやって出すつもりなんだ……。な〜む〜。



夢の総本山、ノキアハウス見学。~エスポー冬の陣~

ヘルシンキから車で約15分の街、エスポーにあるノキアハウス。文字通り一面の銀世界の中に、こつ然とその姿は現れました。地元の建築家ヘリン&シットネンさんの手によるガラス張りのモダンな社屋は、実は入り組んだフィヨルド沿いに建てられていて、冬でなければ一面のオーシャンビューが楽しめるそう。写真手前に見える手すりのあたりまでがずーっと海なんだって。てことで景観的にはややオフシーズン気味。

さて、約1800人の従業員が働くという巨大社屋に若干ひるみながらも、おそろおそろ中へ。するといきなりズバーンと海が広がるのが予想される広大なロビー(今は真っ白)。グランドピアノがドーンと鎮座するリッチなカフェテリアに、天井知らずな吹き抜け、おしゃれファニチャーなんて当たり前でゴロゴロしてて、いちいち紹介する気にもなりません。もうすべてにおいてオフィスという枠を超えた充実っぷり。ここにオーシャンビューが加わった日にゃ〜もうこれ以上見ないほうが身のためかも。はい、比べない、比べない。世の中知らないほうが幸せってこともあるよ。最後にこんなデカイ手のオモシロ置き物もあったよ、なんてとこで気を落ち着けましょう。

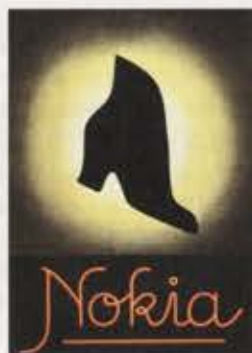


Tanja Raanimo - NET
Eija Mahkonen - FINANCE

親子2代、ちゃきちゃきのノキアライネン(=ノキア人)に聞く。

ノキアハウスでの働き心地はどう?
母(右、Eija)「私はもうここで働いて10年以上になるけど、見ての通り恵まれた環境だわ。この娘の妹が生まれて一度退社したんだけど、やっぱり恋しくなってまた戻ってきたくらいよ」
娘(左、Tanja)「母がノキアというフィンランドで一番大きい会社で働いてるのがうらやましくて、学生時代の夏休みに頼み込んでバイトさせてもらった。ここはホントにさまざまなチャンスに溢れてるから、そのまま就職しちゃった」
たとえばどんなチャンス?

娘「将来海外で仕事をするのが夢だから、世界中に支部があるノキアは理想の会社。それなりにキャリアを積みばかなり自由に海外に行けるのよ」
母「私の田舎街であるオウルには、ご飯を食べない子供を言いきかせる際に、こんな言い方があるの。「たくさん食べないと、大きくなってからノキアに入れないわよ」ってね。そのくらいみんなの憧れの職場なのよ」
家ではさぞ会社の話で盛り上がるんでしょうね。母&娘「仕事の話はほとんどしないけど、人間関係の話では盛り上がることもあるわね(笑)」



広告にキャラをほとんど使用しないノキアの選りあキャラ、「ガロッシュ(長靴)・ボーイ」・フクちゃんじゃないよ。1920年代後半に活躍。長靴を含むゴム製造業は売却済み。

その昔、ノキアといえば「長靴」と「ちり紙」と「電線」でした。

「おう、ニホンから来たのか？ サケ！ ニホンのサケはオイシイ。サケ、サケ、ゲイシャ。ゲイシャチョコ知ってるか？ こっちじゃ昔から有名なお菓子だ。中にナッツクリーム入ってるから、食べてみ、ほら。ん、ノキア、ノキアか。昔はニホンの会社だと勘違いされてた。トキオとかトヨタと似てるだろ？」

勤続30年以上という生粋のノキアライオン、ステファンさん(トレード関連部署のVice President)。今回、社内きっての親日家として、ではもちろんなく、黎明期の語り部として生立ちに関するお話を聞いたのでした。「ノキアのルーツは、1865年、フィンランド南部のノキア嶺と呼ばれる荘園にできたバルブ工場にあってな。この工場とゴム製品メーカー、ケーブルメーカーが合併して生まれたノキア・グループがベースだな。昔はノキアといえばゴム長靴だったんだ。わしもハンティングが

趣味だったから、入社する前からノキアの長靴は愛用しておったぞ」

ステファンさんが入った頃はどんな会社でした？
「聞いて驚け、わしはノキア初の外国人社員なんじゃよ。液晶技術として入社した1972年は、ちょうどノキアがデジタル産業に本格的に足を踏み入れた頃でな。まだヘルシンキの普通のビルにあって、社員も全部で60人くらいしかおらんかった。みんな新しいことをしようという活気に溢れていたよ。社屋は替わってもこの雰囲気は今でも変わっちゃいない。昔と変わったことといえば、当時はサウナ会議なんてのが毎週あったんだが、最近ほめっきり少なくなったくらいだな」

さて、本題。ノキアはいかにして厳しい通信業界をサヴァイブして、トップ企業になったか!? てな話はビジネス書が山ほど出てるのでそっちでチェックしてちょ。



Stefan Widomski

ステファン・ウィドムスキ●日本酒が好き。ノキアが好き。サウナも好き。サウナはフィンランド人みんな好き。でもステファンさんはポーランド生まれのガイコクジンのでした。で、息子もノキアライオンなでした。

VP-TRADE AFFAIRS



ノキアのルーツとなった製紙バルブ業。中でもノキア印のトイレットペーパーはやわらかいと評判で、58カ国の人たちのお尻の友でした。残念ながら製紙部門は、91年、業種を通信関係に絞る際に売却。



1912年頃から、ノキアのさまざまなゴム製品を作っていたフィンニッシュ・ラバー・ワークス社のゴムかかと広告。「おしゃべりは足元からってな」とおじさんも申しております。こちら30年代モノ。



らっしゅい！ 40年代のフィンニッシュ・ラバー・ワークス社ショップへようこそ。靴やタイヤの他、輪ゴム、レインコート、ボール、レジャーシートなどがかなり豊富なラインナップをご用意してまよ。



知ってます？ノキア・タイヤのグリップ力。このギザギザが凍てついた路面をしっかりとらえてとらえてしょうがねえんです！ ライバルはいない！なんてうるさい宣伝文句が一切ない36年の広告。



レークブラッド冬季オリンピック、クロスカントリースキーの銀メダリスト、ユハ・ミエトを採用した「ハッカベリータ タイヤ09」の広告。1980年モノ。タイヤ事業はすでに売却されています。



通信事業のルーツとなったフィンニッシュ・ケーブル・ワークス社の工場。ケーブルリールにはしっかりノキアの文字が、バルブ、ゴム、そしてこのケーブルメーカーの3社が合併してノキア・グループに。



電話の普及によるケーブル需要の急増によりノリノリだったフィンニッシュ・ケーブル・ワークス社は、テレビ販売も開始。かつては液晶ディスプレイなど、コンピュータ機器などを手がけていた。59年の広告。



なんと！ノキアが93年から98年にわたって、レニングラード・カウボーイズのコンサートをサポート。ホーワイ!? なみみにむっちゃ長いレニングラモデルの携帯。なんてのは出てません。残念ながら。



82年、ノキア初の携帯電話機「モビラ・セネター」。なんと約10kg！ 新車価格の約1/3相当のお値段！ ウェイトにもプライズ的にもちと手が出ません。まだ携帯というより自動車電話ですから、重さは勘弁して。



移動電話2代目「モビラ・トークマン450」。いきなり半減の重量約5kgという過酷なダイエットに成功。どこでもお供しませ！ という忠告の精神に溢れる86年の広告はその年のフィンランド最優秀広告賞を受賞。



事件です！ ヘルシンキでの首脳会議の際、ゴルバチョフしよきもやが、隣のハンディレコムーニーターで電話を17 1体あれはナンナンデショウ!!! 世界中に配信されたこの映像で、ノキアは一躍注目の的。



ゴルビーが使ったのが、この「モビラ・シティマン900」。重量約800g！ 87年、ようやく手の中に収まる携帯電話の登場です。それでもまだまだ高価で、ヤッピーたち向けのステイタスシンボルでした。えっへん。



ノキアの起源となる、フレデリック・イデ・スタム氏が作った製紙会社のロゴ。のんきに魚が泳ぐ川のほとりにあった工場にぴったりのウオッパリ。しかーし、こんな顔してどえらい成長魚なでした。



1898年、ノキアのお隣に工場を建てたフィンニッシュ・ラバー・ワークス社は、ノキアのゴム製品の生産を始めました。その際できたのがこちらのロゴ。ぐにゃりとゴムっぽくもあり、タイヤっぽくもあり。



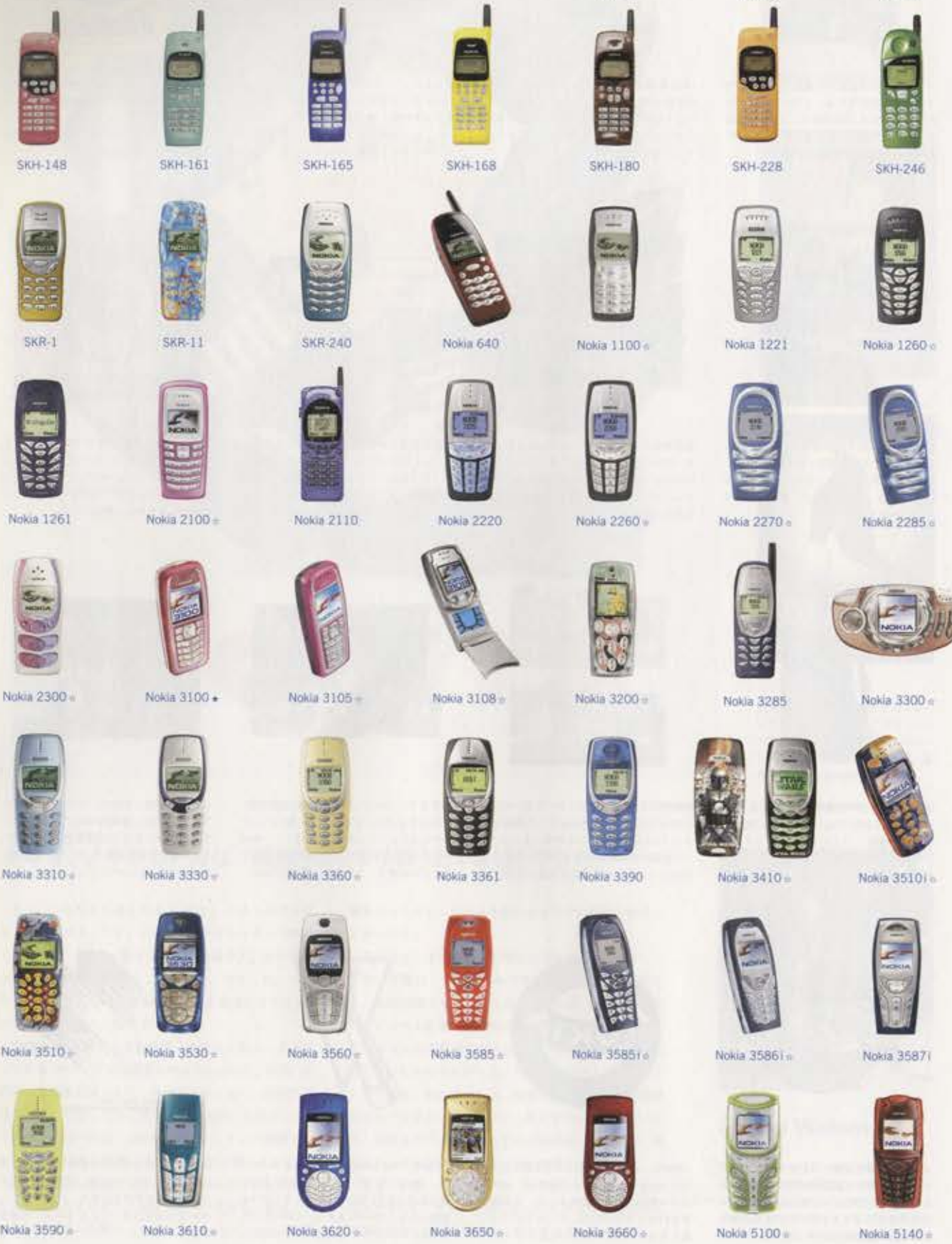
1912年、ヘルシンキに設立されたフィンニッシュ・ケーブル・ワークス社のロゴ。会社の顔はわかりやすいのが一番です。ケーブルの先触ったら、パチパチきそう、パチパチって。いやさ、フィンランド静電気すごいから。



移動通信業界でグングン成長していた87年に作られたノキアのロゴ。IT企業感あふれるスマートなデザインです。バルブ、ゴム、ケーブルの3社が1つになったよ、のカタチなり。

ノキア携帯わりと最近のほぼ全仕事。

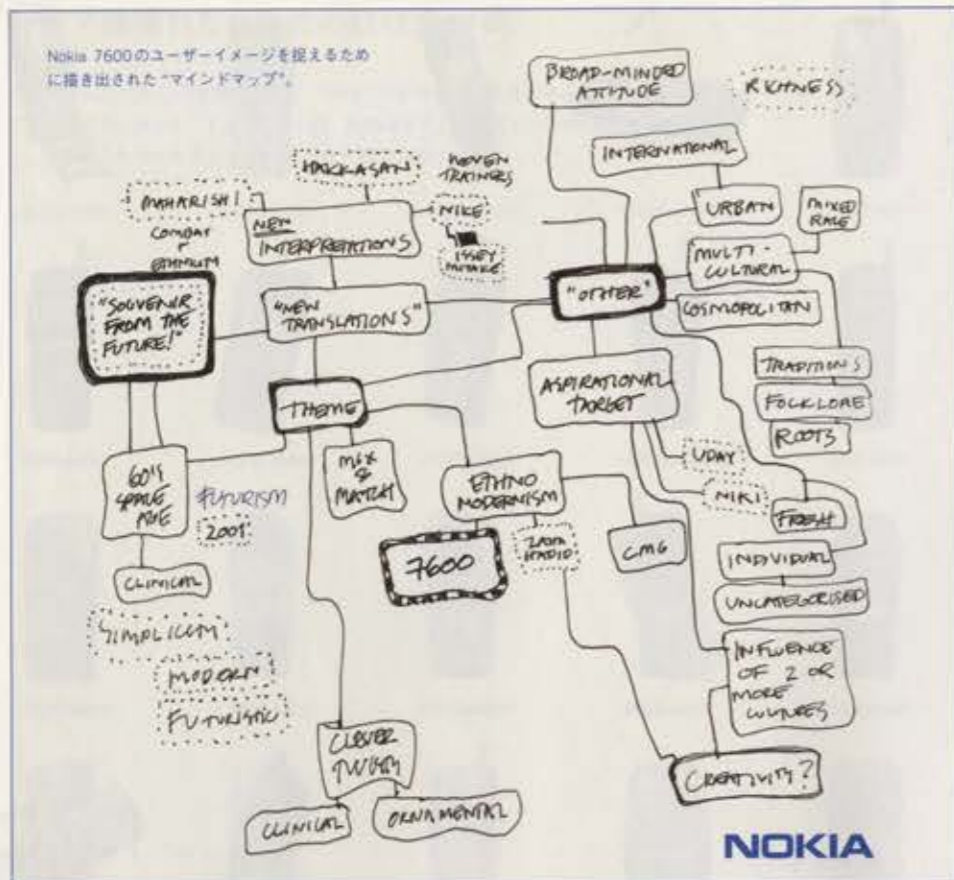
あんまりに旧式なものはいらない、"ほぼ"ですから。全仕事だなんておかげなこと言っちゃってすみません。それにしても、未知なるナイスデザインの多いこと多いこと。あれもこれもそれぞれもどれも！これがノキアの底力です。



ごく一部をご紹介。Nokia 8110はご存知、映画「マトリックス」で使用されたことで一躍注目を浴びたモデル！なんだけど、実はフィンランドなどでは映画封切りよりずいぶん前に発売されており、「なんで今さら？」って感じだったとか。もちろん、発売当初はスライド式携帯ということでかなり話題となり、いまだに人気が高いノキア・マスターピースの1つ、「バナナフォン」の愛称で親しまれ、ネットオークションでは高値で取引されることも。「ジゴギー」の愛称で親しまれたNokia 8810は金属ボディを採用した初の携帯電話。高級志向携帯の先駆けとなった。携帯電話にファッションという概念を持ち込んだ初の携帯がNokia 8210。多くのカラーヴァリエーションを持ち、ケンゾーにて発表会が行われた。

◎は現行品および今後発売予定のもの、★は現在、日本国内で買えるものです。

Nokia 7600のユーザーイメージを捉えるために描き出された「マインドマップ」。



ノキアデザインの新しいカタチ、 Nokia 7600ができるまで。



複雑な面構成を持つサイドのフォルム。垂直面はテキストメッセージを打つ際のホールド感を高め、斜めに走る面は通話の際に手になじむ、「ツインアクシス」な形状を試行錯誤。



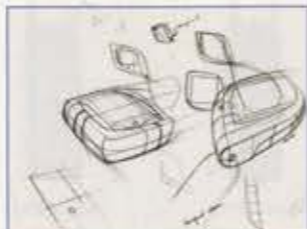
リミテッドエディションもね。

限定のホワイトスリーブ、レーザーストラップ、スペシャルアートブックが一緒に収められたスペシャルBOX(ヨーロッパ限定)も海外のコンランショップやコレットなどのセレクトショップで発売。今後、日本限定でのスペシャル企画もあるかも!?



満を持して、待望の日本発売決定!

日本から国境を越えて使えるデュアルモード端末*! 赤外線はもちろんBluetoothにも対応! 音楽だって聴けるしカメラも内蔵! 一気にまくしたててみましたが、デザインはむしろが、スペック的にも充実装備。スリーブ(サイドのカラーカバー)も交換可能で、専用デザインのイヤホンマイクも付属しています。気になる発売日のほうは、今のところ未定だが、近日予定。しばし待たれ!



Nokia 7600をつかったひとに聞きました。



Tej Chauhan

テジ・チャウハン●ボティショップ、プリティッシュ・エアウェイブなどを手がけた。ロンドンのノキア・デザイン・センターへ、Nokia 7600担当デザイナーである彼にテレビ電話インタビュー!

個性派揃いのノキア携帯の中でも、かなり思い切りましたね。

「初めて目にした人は、まず『これでどうやって通話するんだ?』って思う。『こうかな、それともこうかな?』と思いをめぐらせながら、でも手にとった瞬間、そのカタチが自然とベストなホルドのポジションを教えてくれるようにデザインされているんだ。だから見慣れないユニークな形をしていても、直感的に使うことができるよ。このNokia 7600は簡単に写真や動画のやりとりができる3G(第三世代)テクノロジーを本格的に採用したモデル。そこで重要なのはイメージビューワーとしての使いやすさだと考えたんだ。だから、まず液晶画面が見やすいように電話の真ん中にレイアウトした。次にキーの配置だね。これは、ヨーロッパでは、両手を使ってキーを打つ人がほとんどなので、両手で打ちやすいようキーを画面の

サイドに沿うようにデザインしたんだよ」

結果、思った通りの仕上がりに?

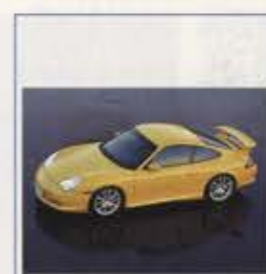
「大満足だね。高い機能性を持たせたいので、僕がテーマとした「エスノモダニズム」、未来的要素と温かみを感じられるエスニックをミックスしたスタイルもうまく表現できたと思う」

ホントにホントに少しの不満もないの?

「ないよ(笑)。まあ、強いて言うなら、スリーブをラバーやレザーで作れたら良かったかな。このパーツは複雑な形状をしていてとても苦労した部分だから、すごく思い入れがあるんだ。でも、まあ、スリーブはアフターパーツとしても出せるからね」

テジの考えるグッドデザインとは?

「タイムレスなデザインだね。時間がたっても色あせない、例えば、アルテミデのトロメオランプや、ジョー・コロomboのボビーワゴンのような。あとボルシェ911も好きだな。特に70~80年代のオリジナル。あのクルマはいつ見てもとても美しいし、誰が見てもボルシェだってすぐわかるデザインだからね。最も理想的なのはピックのライター。価値的に誰にでも手の届くリーズナブルなうえ、20年以上変わらない普遍的デザインを併せ持つ傑作だと思う」



ボルシェ911シリーズ、オリジナリティを誇る!



ジョー・コロomboのボビーワゴン。シンプルであれ!」



アルテミデのトロメオ。ソリッドであれ!」



ピックの100円ライター。身近であれ! 普遍的であれ!

「ノキア・デザイン」を統括する、えらいひとにも聞きました。



Frank Nuovo

フランク・ヌーヴォ●BMWのデザインコンサルタートを経てノキアのチーフデザイナー兼副社長へ。元クラシック乗車の経験を活かし、ハイエンド携帯ブランド(VERTU)用の着信音制作にも携わる多才なひと。テレ電!

ズバリ、ノキアのデザインポリシーは?

「ハイスティール、ハイファンクション」

その2つが共存できないケースも多いですが、そんな時、ノキアが優先するのは?

「どちらかと聞かれれば、ノキアはファンクションファーストだ。あくまでデザインは機能を補完するもの。しかし、我々はこの2つの共存に常にトライしてきた。その結果、かなり自由にスタイルを強調しても機能は維持できるようになったと思うよ」

ノキアデザインを際立たせる大きな要素の1つに独特な色遣いがあると思うんですけど、このセレクトはどのように?

「ノキアには、色と素材のトレンドを追求する専門部署があってね。ここでは常に世界中のファッション、車、繊維関係などの色と素材のトレンドを追っている。今流行っている色を出すのではなく、次に来る色をある程度予測して出すのさ」

日本では一般的な、消費者調査でカラーヴァリエーションを決める、ということはない?

「消費者調査はするが、それは発売したカラーの評判を確認するためのもの。その結果、リサーチ部署が予想した色のトレンドはほとんど当たっていた、ということがわかっている。ファッションに敏感な人は当然カラーにも敏感で、携帯にも少し先を見据えた展開を求めているからね。また、ノキアはカバーを取り換えられるというシステムを導入したバイオニアでもあるんだよ」

例えば、デザイナーが希望した色とリサーチ結果が合致しない場合はどちらを優先する?

「その色が機能に結びついてるのなら、デザイナーの意見を採用するが、単に好みのお話であれば、リサーチを優先する。が、こればかりは一概には言えないな。デザイナーの持っているセンスとのバランスが重要だね」

最後に、副社長ともなると、携帯売りっぱなしの忙しさだと思いますが、そんな時、「携帯なんか携帯したくない!」とか思ったりしません? 「そんな時に非常に有効なテクニックを教えよう。電源スイッチを切るのさ(笑)」



山本哲也

NRC

某日本企業の筐体デザイナーからNRCへ。細かい商標に拘束なく、直接責任者とやりとりするノキア・スタイルに、入社当初はかなりとまどったが、オフィスのデスクは、街中で見つけたオモシログッズだらけ。らしい。



ノキアの未来はいつらにお任せだ! ハイテク感はあるけど、ハッピーなグッズは間違いなく溢れている。使うことが楽しくなる携帯電話へとしっかり成長してくれることでしょう。数年後をお楽しみに!

ノキア携帯の明るいミライ!? (山本さんの場合)

NOKIA RESEARCH CENTER. 略して、NRC! 従来の携帯電話のあるべき姿を日夜リサーチしたりする最先端部署。そんなノキアのバルブアルト研究所にお勤めの和製アラン・ケイ(?)、山本さんに聞きたい! ノキアの未来はどっちだ!

「さあ(あっさり)。僕の仕事は最先端の技術で未来の携帯を作る。というより、デザインの前段階のリサーチ、コンセプトクリエイションなどをするのが主な仕事ですから」

へ? では具体的な仕事のほうは?

「あくまで僕の場合ですけど、コンセプトイメージを基にモックを作ったり、本国のデザインセンターから「日本で何か面白いものない?」と聞かれた時、街じゃ歩き回っている集めてレポートしたりとか、要するに、ま、何でもします。はい」

ノキアデザインのアイデアソースを探す重要任務ですね。

「そんなのかな(笑)。例えば、こんな。絵が浮き上がって見えるようなシート。本体から浮き上がって見えるキーボードなんかはどうかな?とか。あと、こういうブロー成型のシャンパーボトル。

印刷だと微妙なノイズのあるグラデが出ないんですよ。メラミン製のコップなんかも、持った感じの素材感が全然普通のプラスチックと違うし、携帯に使えないかなー、といった感じの作業です」

地味だけど、なんだかずいぶん楽しそうだ。「そう思われるのが一番困る(笑)。せっぱ詰まると本当にツライですよ。一日中東急ハンズをウロウロしたりしますから。そういえば、この前、ハンズでこんなの見つけたんです。昔、磁石でお絵描きできるおもちゃがありましたよね。あれは鉄粉の細かい粒が、ペンの磁石に引き寄せられて、画面に吸い付く、という原理だったんですけど、いつの間にかゴイ進化を遂げていたんです。このおもちゃの画面には、表に白、裏に黒のペイントがされている磁石の粒が並んでいて、そこを磁石のペンでなぞると、白だった面がひっくり返って黒になり線が描ける仕組みに! どうやらこんな細かい磁石の粒にもS極とN極にそれぞれ別の色をつける技術ができたみたいで、いつの間にかこんなこと!?! なんでもっと宣伝しない!?って」

この進化が胸に響く入ってのもそんなにいなそうなんですもんね……。

「え!? マジですか? 僕なんかこれで3時間以上遊んでましたよ。将来期待されている紙状のディスプレイとはほぼ同じ原理じゃん! って。じゃあ、これはどうですか? ペンでなぞったところが、こんなふうにライトアップできる! いろんな点滅のヴァリエーションもありますよ」

メニューボードとかに良さげですね。ただ僕ら素人には携帯にどう反映されるのやら見当が……。[実は僕もまだ何も……(笑)]



NRCがリサーチのため3、4年前に制作したPDAのプロトタイプ。最新作は、もち企業秘密! なお現時点ではこちらのプロトタイプの製品化予定はございません。

知られざるノキアの大発明!



自分の使いたい機能へ行くための複雑な操作も、面倒なマニュアルの読み込みも、ナビキー登場のおかげで必要なし! 今や当たり前の機能の1つとして数えられることもないこのシステム。なごった時代のことを考えると、ホント、ゾッとします……。



ちなみに、名前を呼ぶだけで電話がかけられるシステムもノキアが初。このヨボボタンを押しながら、電話したい相手の名前を呼ぶだけで、ぶるるる……。

携帯の「メニュー構造」。今となっては当たり前の機能ですが、これはノキアが世界に先駆けて始めたこと。それ以前は、使いたい機能にたどりつくまでに、それはそれは面倒なキー操作が必要だったもので。さらに「ナビキー」を導入することで、マニュアル片手に「え〜、ファンクション11が〇〇の機能で〜」みたいな学習も不要に。ノキアらしい直感的操作でメニュー機能を使うことができるようになったのでした。こういう人にやさしい機能はやっぱりノキアの強項。ありがたや〜。



Nokia Medallion I マティアスがしていたNokia Medallion IIの別デザインモデル。96×96ピクセル、4096色表示の小型液晶を内蔵し、最大8枚までの画像を保存可能。ワンタッチで時計表示にも。(¥27,825)



Nokia Medallion II よりサイバーなテイストを抑えて、従来のアクセサリに近いイメージへ。専用、手首用の2種類の革ひもが付いてきます。その他、基本性能はNokia Medallion Iと同じです。



Nokia Digital Pen このペンを使って専用紙に絵や文字を書くと、あら不思議! Bluetooth対応PCなどにデータ化して送信することができる。筆圧やかすれなども認識可能。キーボードが苦手な人もこれで安心。



Nokia Image Frame ノキア携帯のカメラで撮った画像をフォトフレーム感覚で楽しめるイメージビューワー。4096色5.1inch液晶搭載。約50枚保存可能。タテ置きヨコ置きどちらもOKです。



Nokia Fun Camera 手のひらサイズ、VGA 640×480のお手軽デジカメ。約90gの小型ボディに1MBメモリー、ストロボ、セルフタイマーなど必要最低限の機能をコンパクトに収納。ノキア携帯と画像のやりとりも可能。



Nokia Fitness Monitor 歩数、走行距離、消費カロリーの計測など16種類の機能が盛り込まれたハイテク万歩計。週間目標の設定も可能。赤外線により、計測結果を携帯電話に保存することもできる。



Nokia Xpress-on™ GPS Shell 携帯カバーをこのシェルに交換するだけで、大きなオプションパーツをぶら下げることなくスマートにGPS機能が追加できる。webからmapデータをアップデートでき、ルート探索も可能。Nokia 5140専用。



Nokia Kaleidoscope I 長さ約7cmの筒を万華鏡のようにのぞき込むことで画像を見ることが出来る小型イメージビューワー。270×228ピクセル、3万2768色表示の液晶で最大24枚保存可能。



Nokia Wireless Boom Headset Bluetooth内蔵のワイヤレスイヤホンマイク。オーガニックなデザインで、耳にクリップオンできるシロモノ。* Nokia Medallion Iを除く8機種は価格や発売時期など未定。

携帯以外にも、こっそりこんなもの作ってます。

「モイ! (フィンランド流のごあいさつ)」ブラダの紙袋を手に喫肉と登場したイケメンノキアライオン、マティアス! が紹介してくれたのはノキアのアクセサリ一環。「ノキアの自由な発想を生かしたファッションエレクトロニクスは最近、力を入れている分野の1つなんだ」

彼の首元を飾る小型液晶内蔵チョーカー。(Nokia Medallion II) もその1つ。携帯電話などで撮った画像データを赤外線飛ばしてやることで、お気に入りの画像をアクセサリとして携帯できるスグレモノ。そして、本日、マティアスがチョイスした画像はというと、「愛」の一文字!

「日本語で「LOVE」の意味なんだよね? この文字は線が複雑に入り組んでいて、とても好みのデザインなんだ」

歓迎の意味としてはとてもうれしいけど…なんつか、その…マティアスのそのイケメンっぷりとあいまってですね……。

「そう、さまざまなTPOに合わせて絵柄を替えることができるんだよ」

うん……。

SR MGR M-MOBILE ENHANCEMENTS



Matias Järnefelt

マティアス・ヤルネフェルト●イケメンなうえ、ビジネスMBAを持つコウイ奴。マネージメントコンサルティングの仕事が縁でノキアにヘッドハンティングされ、現在はモバイル・エンハンズメント部門を統括。

ノキアといえば、おもろノベルティ!

なんて熱心な愛好家がいるほどの充実っぷりを誇るノベルティラインナップ。MTBやスノーボードなどの大物から、砂遊びセットやビーチマットなどのレジャー用品、携帯キーを模したペーパータトゥーや電話カラーと同色のアイシャドウなどのおしゃれ小物まで、その品数はとてつもなく広い。そして、どれもいい意味で非常にバカバカしくて最高なのである。こういう末端のプロダクトこそ、その会社の雰囲気というのは反映されるもの。ノキアのユニークな社風を感じさせるためのツールとしては大成功してますよ。(ここに紹介したノベルティの中には販売、配付を終了しているものもあります)



バレンタインキャンペーンで使用されたチョコ。



かなり本格的なエスプレッソメーカー。



伊勢エビに見えないこともない携帯キー・タトゥー。



砂の携帯電話が作れる砂遊びセット。



ビーチマット。写真は小さいが実物はデカイ。

